



LPガスについての



ガス漏れが疑われる場合は窓を開ける

ガスの臭いを感じたときは、窓を開けてガスを外に追い出しましょう。ガスは空気より重いため、低いところにたまったガスにもご注意ください。

バルブ（元栓）を閉める

ガスの臭いを感じたときは、窓を開けるほか、メーターのガス栓かガスの容器のバルブを必ず閉めてください。ガス漏れが疑われる場合は、LPガス販売店に連絡しましょう。



確認のために火をつける

ガス臭いと感じたときは、コンロや換気扇、電気などのスイッチには触れないでください。電気のスイッチは切る時にも火花が出ますので、ガス臭いときには切ることもしないでください。

※震度5以上の地震が発生すると、ガスメーターは自動遮断します。復帰させる場合は復帰ボタン（ガス漏れチェック開始）を押し、30秒から3分程度はガスを使わずに待機してください。



水道についての



日頃から水の備蓄を行う

災害時のために、日ごろから水を備蓄しましょう。目安量は、1人につき1日最低3リットル、最低3日分を備蓄しましょう。7日分があると安心です。



地震や停電してから、慌てて水道の水を貯める

地震発生直後は漏水などの確認業務を行うため、できるだけ水の利用を控えようお願いします。

停電は、地震とともに起こる可能性があります。地震はいつ起こるかわからないため、停電もまた、いつ起こるかわからないものです。いつ停電が発生しても、焦らずに行動を選択し、冷静に復旧を待てるように、今回のときがわ町統一防災訓練をきっかけにしてみましょう。
9月5日(日)は、ほんの30分間だけ、電気を消してみてください。

災害時のライフライン



電気についての



電気製品のスイッチを切って、プラグを抜く

地震が起きたら火事の危険があります。揺れたら使用中の電気製品のスイッチを必ず切りましょう。

避難するときはブレーカーを切る

避難するときは、電気の消し忘れによる事故を防ぐために、分電盤のブレーカーのつまみを下げてください。日頃から分電盤がどこにあるか確認し、付近に物を置かないようにしましょう。



水に浸かった器具を使う

一度水に浸かった屋内配線や電気製品は、漏電などの原因になります。危険ですから使用しないでください。

切れた電線を見に行く

切れて垂れ下がっている電線には絶対に手を触れないでください。電線に樹木や看板、アンテナなどが接触している場合も大変危険です。見つけたときは、すぐにお近くの東京電力へご連絡ください。

停電についての問い合わせは ...

電話による問い合わせ

☎ 0120-995-007
(東京電力パワーグリッド様)

チャットによる問い合わせ

http://www.tepco.co.jp/pg/user/chat/chat_support-j.html

または

停電情報

検索



写真も送れてスムーズ!



役場に電話する

役場は電気を管理していません。インターネットで調べられる情報しか把握していないため、ご自身でお調べいただくか、東京電力へお問い合わせください。